

大学院修了にあたって

大学院修了にあたり

歯周診断・再建学分野 宮 沢 春 菜

私にとって今年は当たり年で、同僚の結婚式でブーケが2つ、豪華景品が2つも当たるといふ、今までにないおめでたいこと続きでした。ここでまさか同期5人で挑んだ歯学部ニュース執筆担当を決めるクジにまで当たるとは思ってもいませんでしたが、せっかくいただいた機会ですので大学院修了にあたり思うところを綴っていこうと思います。

大学4年の時に、歯周病学実習で先生方の手厚い指導を受け歯周治療の楽しさを感じ、漠然とですが「将来は歯周科で勉強しているかも」と直感したのを覚えています。健康な口腔を保つ基礎となる歯周組織を維持するため、一般的な歯科治療に加えプラークコントロールから歯周手術に至るまで、幅広く学べる分野であることを知りさらに興味が深まりました。そして6年の時、中島貴子先生から声をかけていただいたのがきっかけで大学院進学を考え始め、研修医時代より、歯周病を含め炎症と全身疾患との関連について深く研究されている山崎和久教授の研究班にて、勉強会に参加させていただくようになりました。

研究については全くの素人で一からのチャレンジだったのでとても大変でしたが、先輩方から優しくそして時には厳しい指導を受け、少しずつ出来るが増えていくたびに楽しさを実感していきました。大学院2年に自分の研究テーマを伝えていただいた時は、嬉しさというより身の引き締まる思いがしました。そして大学院時代だけでなく、これからも追求できるテーマをいただけたことをとても幸せに思います。歯周炎が動脈硬化疾患のリスク因子であることが報告され、炎症と脂質代謝の関連が示されている中、複数の分子が関連する血清 LDL コレステロールレベル調節に

おいて、特に LDL 受容体を直接的に分解する proprotein convertase subtilisin/kexin type 9 (PCSK9) という近年新たに発見された分子と歯周炎との関連について、私は現在研究しています。これまでに、歯周炎患者において血清 PCSK9 レベルが上昇し、それが歯周炎の重症度と関連していること、そして歯周病原細菌感染マウスモデルを用い、炎症応答に伴い血清 LDL コレステロールレベルが上昇するメカニズムにおいて、この PCSK9 が関与することを初めて報告し、国内学会3回、国際学会3回という多くの発表機会にも恵まれました。加えてオーストラリアのクイーンズランド大学やタイのコンケン大学への見学、現地のポスドクや大学院生とのふれあいを通し、グローバルな視野をもつことの大切さを身にしみて感じました。

どんな些細なことでも、大きな壁にぶち当たった時も、細やかなアドバイスをくださる素晴らしい先生方に囲まれ、多くを学ぶことができる環境が整っている大学院での生活は、私にとって大変充実した日々でした。物事を正しく理解し、熟考し、自分なりに工夫してより良い方向へと導く力を身につけることは、研究・臨床に共通して必要不可欠だと思います。今の私にはまだまだ足りない力ではありますが、大学院で学んだことを生かせるようこれからも一歩ずつ成長していければと思います。



4年間一緒に頑張った同期の仲間と。筆者は後列右側

最後に、親身かつ丁寧に指導くださいました山崎和久教授、中島貴子先生、多部田康一先生、ならびにいつも温かく見守ってくださいました吉江弘正教授をはじめ歯周診断・再建学分野の先生方に、この場をお借りしまして心より御礼申し上げます。

大学院修了にあたり

包括歯科補綴学分野 山 鹿 義 郎

4年前に大学院進学にあたり新潟に来ました。新潟に来た当初は、道はもちろん新潟のことも何も知りませんでした。そこで、観光ガイドブックを購入して一生懸命読み、週末にはガイドブック片手に、市内を探索していた当時を懐かしく思います。

私は奥羽大学歯学部を卒業後、同大附属病院で臨床研修を行いました。学生の頃、授業で義歯を習い、やっと自分が歯学部に入学したことが自覚できて、ワクワクしたことを覚えています。その後、補綴、特に義歯が好き！という気持ちが変わること無く、当初は母校の補綴学講座に残ることも考えていましたが、本学そして講座のOBである父の強い勧めもあり、新潟大学の包括歯科補綴学分野で大学院に進学することにしました。

入学当初は、大学の雰囲気など分からないことが多く、不安に感じるのが沢山ありました。幸いだったことは、同じ科に優しく可愛い同期が2人いた事でした。記憶に無いのですが、その頃は周りから“金魚のフン”と言われるほど2人の後を追いかけていたようです。なんとか2人の女性と馴染もうと頑張った結果、“金魚のフン”から“女の子っぽく”なったそうです。これは私の順応能力の高さなのか、隠れ持った一面だったのかは分かりませんが、さぞかし気持ち悪かったと思います。今でも2人には本当に感謝しています。もし、悩みや愚痴を聞いてくれる同期がいなかったら途中で逃げ出していたかもしれません。

この4年間は少しでも義歯臨床が上手になりたいという一心で頑張ってきました。しかし大学院は、臨床ばかりしている訳にはいきませんでした。



筆者は中央

2年生になるころから徐々に研究がスタートしていきました。研究は主に理工学教室で指導をして頂きましたが、勝手が分からず苦勞し、ゆっくりとした進行でした。それでも何度か学会発表する機会を頂きました。発表よりも、抄録などの準備に大変苦勞しました。「あなたの文章では意味が分からない」と言われ、書いては添削してもらい書き直す、ということを発表のたび、何回も何回も繰り返しました。本当にありがたいことですが、その頃は理工の先生は意地悪なのだと思っていました。すみませんでした。そして卒業論文の時は、その時以上に時間を割いて指導をして頂いたことで、さらに多くのことを学ぶことができました。元々、もっと義歯を学びたい！という思いだけで進学した大学院ですが、それよりも研究を通じて考え方や問題を解決していく方法などを学べたことが、今後の大きな財産となると思います。

この4年間は、辛いこともありましたが、それでも充実していて楽しかったと思えるのは、野村教授をはじめとした包括歯科補綴学分野の先生方、研究の指導をして頂いた理工学教室の先生方、そして同期や先輩後輩の支えがあったからだと思います。言葉では言い表せないほどの感謝の気持ちでいっぱいです。今後はもう少し大学に残り、大学院で学んだことを生かせるよう、補綴学の研鑽に励みたいと思います。

大学院修了にあたり

口腔生命福祉学 石 澤 尚 子

このたび大学院修了にあたり、ご指導下さいま

した小野和宏教授と（口腔生命福祉学科）隅田好美教授（大分大学大学院福祉社会科学部）へ、心より感謝申し上げます。

先生方のご指導なくして、ここに至ることはできませんでした。

先生方とは、2006年4月口腔生命福祉学科3年次編入第一期生として入学以来、今日まで、数え切れないほどのご指導をいただいて参りました。

小野先生には、学科4年次口腔保健福祉持論「口唇口蓋裂児の母親に対する歯科衛生士の役割について」の指導教官として、ご指導いただきました。

そこからは、患児と母親にとって身近な存在である歯科衛生士が、他職種に比べて、その研究実績がごくわずかである、ということを知りました。

この事実がきっかけとなり、大学院後期過程では、患者および家族の立場に立った治療のあり方を考えることを目的として、「口唇口蓋裂児の母親の心情と治療に対する意思決定過程」を研究テーマとしました。

研究は、患児の母親のインタビューを基にした調査から分析を行いました。インタビュー中、止まらない涙や嗚咽の中で気持ちを語って下さったお母さまたち、「私たちと同じ母親のために活かしてください」と、期待と励ましを込めたメッセージを多くいただきました。途中でくじけそうになった時、この言葉を何度も思い出しました。それでも、日々進行が遅く、情けない自分に幾度も反省する日々。小野先生には本当にお世話になりました。

隅田先生は、これまでの臨床では価値を見出せず、何かをつかみたくて編入した私に、学び直しの指標を教えて下さった「恩師」です。

このたびの研究において、私たちは、情報を伝えるだけではなく、患者や家族が願っていること



筆者は最前列中央

を汲み取っていく技術と場や環境を整備していく力を養っていくことが大切と教えてくださいました。

2年前に新潟大から大分大へ移られてもこの研究を最後まで見届けてくださいました。これからも、道に迷った時は、先生の言葉を思い出します。どうしようもない時は、連絡します。ご迷惑おかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

そして、私にとってなくてはならない口腔生命一期の仲間たち。卒業してからも、ずっと、応援してくれました。親子ほどの歳の差があっても「違和感なし」の不思議な仲間たち。一期編入のみんな、五十嵐キャンパスで撮った写真、懐かしいでしょう。入学してすぐにデンタルハイジーン：第26巻第10号：2006年10月号に載せたものです。

今、みんなは、それぞれの道を歩んでいることと思います。私もやっと学生を修了しました。いつも未来について語り合い、励まし合ったあの頃のことが懐かしくて、再びこのスナップ写真を掲載することにしました。

みんな、今まで本当にありがとう。これからも、語り合おうね。

平成25年度 大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻博士課程修了者論文名

博士の専攻分野の名称	氏名(専攻)	博士論文名
博士(歯学)	橋元千久佐 (口腔生命科学)	地域在住高齢者における食欲および咀嚼不自由感と関連要因に関する研究
博士(歯学)	大墨竜也 (口腔生命科学)	Residual structure of Streptococcus mutans biofilm following complete disinfection favors secondary bacterial adhesion and biofilm re-development (殺菌処理後の残存バイオフィルム構造は二次的な細菌付着とバイオフィルムの再形成を促進する)
博士(歯学)	渡部平馬 (口腔生命科学)	Efficiency of the dual-curable resin cement polymerization induced by high intensity LED curing units through ceramic material (セラミック材介在下で高出力LED照射器を用いた場合のデュアルキュア型レジンセメントの重合度について)
博士(歯学)	北見恩美 (口腔生命科学)	Transient Over Expression of Heat Shock Protein 27 Reduces Apoptotic Reaction of Osteoblasts without Affecting the Differentiation Capacity (骨芽細胞におけるHeat Shock Protein 27の一過性過剰発現は分化能に影響を及ぼさずにアポトーシスを抑制する)
博士(歯学)	岡田萌 (口腔生命科学)	Periodontal Treatment Decreases Levels of Antibodies to Porphyromonas gingivalis and Citrulline in Patients With Rheumatoid Arthritis and Periodontitis (歯周炎併発関節リウマチ患者における歯周治療のPorphyromonas gingivalisに対する抗体価とシトルリンの減少)
博士(歯学)	岡田崇之 (口腔生命科学)	殺菌および抗炎症作用を有する歯磨剤ジェルコートFの歯周治療後残存歯周ポケットに対する効果
博士(歯学)	小林美登 (口腔生命科学)	A proposed protocol for the standardized preparation of PRF membranes for clinical use (PRF膜の臨床応用のための標準化プロトコール)
博士(学術)	富田尊志 (口腔生命科学)	Gene and protein localisation of tumour necrosis factor (TNF)- α converting enzyme in gingival tissues from periodontitis patients with drug-induced gingival overgrowth (薬物性歯肉増殖症歯肉組織におけるtumour necrosis factor (TNF)- α converting enzymeの遺伝子発現とタンパク質局在)
博士(歯学)	堀水慎 (口腔生命科学)	An improved freeze-dried PRP-coated biodegradable material suitable for connective tissue regenerative therapy (結合組織再生治療のための、吸収性凍結乾燥PRPスポンジの開発)
博士(歯学)	宮沢春菜 (口腔生命科学)	Increased serum PCSK9 concentrations are associated with periodontal infection but do not correlate with LDL cholesterol concentration (血清PCSK9レベルの上昇は歯周炎罹患と関連するが、LDLコレステロールレベルとは相関しない)
博士(歯学)	井表千馨 (口腔生命科学)	Alterations in the expression pattern of the acid-sensing ion channel 3 (ASIC3) during the regeneration of periodontal Ruffini endings (歯根膜ルフィニ神経終末の再生過程におけるASIC3発現様式の変化)
博士(歯学)	大竹正紀 (口腔生命科学)	中咽頭への苦味刺激が嚥下誘発に及ぼす影響とうま味刺激との相互作用
博士(歯学)	高橋功次朗 (口腔生命科学)	Facilitation of the swallowing reflex with bilateral afferent input from the superior laryngeal nerve (上喉頭神経の両側同時刺激による嚥下反射の促進)

博士の専攻 分野の名称	氏名（専攻）	博士論文名
博士（歯学）	泉野裕美 （口腔生命科学）	Relation between physical fitness and oral function in community-dwelling elderly （地域在住自立高齢者における口腔機能と体力との関連）
博士（学術）	中山富子 （口腔生命科学）	介護老人施設に入所している高齢者の摂食・嚥下機能にかかわる状況と施設の対応
博士（歯学）	畠山文 （口腔生命科学）	口腔への味溶液刺激がもたらす随意性嚥下への効果
博士（歯学）	金子広美 （口腔生命科学）	Cu含有量の異なる金銀/パラジウム合金の接触腐食における腐食表面のXPS分析
博士（歯学）	塩見晶 （口腔生命科学）	Cyclic mechanical pressure loading alters epithelial homeostasis in a three-dimensional in vitro oral mucosa model: Clinical implications for denture-wearers （反復加圧刺激が口腔粘膜上皮の恒常性に及ぼす影響について—義歯装着が口腔粘膜上皮に及ぼす影響—）
博士（歯学）	山鹿義郎 （口腔生命科学）	Usefulness of a rotation-revolution mixer for mixing powder-liquid reline material （粉液型リライン材の混和に公転・自転式ミキサーを用いる有用性）
博士（歯学）	御代田駿 （口腔生命科学）	Intraoperative assessment of surgical margins of oral squamous cell carcinoma using frozen sections: a practical clinicopathological management for recurrences （口腔扁平上皮癌の切除断端における術中迅速病理診断の意義：局所再発に対する有効性の検討）
博士（歯学）	平野真弓 （口腔生命科学）	保育園児に対する口腔機能向上訓練の構音機能の効果について
博士（歯学）	大倉直人 （口腔生命科学）	Prostaglandin transporting protein-mediated prostaglandin E2 transport in lipopolysaccharide-inflamed rat dental pulp （リポ多糖で誘発したラット炎症歯髄におけるプロスタグランジン輸送担体を介したプロスタグランジンE2輸送の解析）
博士（歯学）	王燕銘 （口腔生命科学）	FcγRIIB-nt645+25A/G gene polymorphism and periodontitis in Japanese women with preeclampsia （妊娠高血圧腎症を有する日本女性におけるFcγRIIB-nt645+25A/G遺伝子多型と歯周病）

平成25年度 大学院医歯学総合研究科口腔保健福祉学専攻博士前期・後期課程修了者論文名

専攻分野の名称	氏名（専攻）	論文名
修士 (口腔保健福祉学)	中 澤 亜香里 (口腔保健福祉学)	介護保険施設の介護職員・看護師における口腔ケア関連歯科用語の理解度調査
修士 (口腔保健福祉学)	中 野 優 (口腔保健福祉学)	新潟市地域福祉計画の考察 東京都品川区・豊島区との比較
修士 (口腔保健福祉学)	野 上 有紀子 (口腔保健福祉学)	児童相談所一時保護児童の口腔内状況
修士 (口腔保健福祉学)	皆 川 渚 (口腔保健福祉学)	口腔保健・福祉専門職養成大学卒業生の仕事上の悩みやストレスの実態とその支援
博士 (口腔保健福祉学)	登 坂 友 貴 (口腔生命福祉学)	Analysis of tooth brushing cycles (ブラッシング時の歯ブラシの動的解析)
博士 (口腔保健福祉学)	石 澤 尚 子 (口腔生命福祉学)	口唇口蓋裂児の母親の心情と治療に対する意思決定過程

